

西胆振地域廃棄物広域処理事業

性能要件と引渡性能試験の評価結果

平成15年3月28日

区分	種別	細別	性能要件	判断基準	適否	備考					
第1章 総則	第2節 基本的な事業条件	1 立地条件	1.1 地形、地質等	-	-	-					
			1.2 都市計画事項等	-	-	-					
			1.3 敷地周辺の状況	1) 建設地の概要	(1) 敷地面積 必要施設、道路等が敷地内にすべて収まっているか (2) 埋蔵文化財等の分布 - (3) 自然環境保護区等の設定状況 - (4) 河川敷 関係法令を遵守し、河川敷に建築物が建っていないか	- - - -	- - - -	- - - -			
		2 計画	2.1 敷地内に立地する施設等の構成	2) 敷地周辺のユーティリティ条件	(1) 設計・施工時 電気、上水道の要件に適合しているか	-	-	-			
					(2) 運営時 電気、上水道の要件に適合しているか	-	-	-			
			2.2 搬入道路		敷地内に5施設等が配置されているか	-	-	-			
			4 広域処理施設の基本条件	4.1 燃焼・溶融処理設備の技術方式		次世代方式に属する3炉型式となっているか	-	-	-		
				4.2 施設整備規模		施設整備規模が、225/d未満（国庫補助の上限）であるか	-	-	-		
				4.3 稼働日数等		24時間連続運転、稼働日数280日以上となっているか	引渡性能試験で確認	-	280日運転は2年間の性能保障期間中に確認のこと		
				4.4 系列数		燃焼・溶融処理設備が2系列以上となっているか	-	-	-		
				4.5 重要度係数		重要度係数1.25以上としているか	-	-	-		
			第2章 広域処理施設の設計・施工に関する要件	第3節 設計・施工に関する要件	1.1 基本的な計画事項	1) ごみの年間処理量	計画処理量を全量処理できる施設であるか	引渡性能試験で確認	-	低質ごみ、高質ごみの処理性能は運営期間中に確認のこと	
						2) ごみの性状	計画性状を適正処理できる施設であるか	引渡性能試験で確認	-		
						1.2 各設備に共通の事項	1) 耐荷重	構造耐力上の安全が確保されているか	-		-
							2) 処理能力	計画処理量を処理する能力を有するか	1.1 1)で確認		-
3) 腐食防止	腐食防止対策がとられているか	-					-				
4) 飛散等防止	ごみの飛散防止及び悪臭対策はとられているか	-					-				
5) 騒音・振動防止	著しい騒音・振動が起こらないものであるか	3.2及び3.3で確認					-				
6) 流出防止	汚水、廃液対策はとられているか	-			-						
7) 寒冷地対策	寒冷地対策はとられているか	4.4で確認			-						
1.3 受入れ	1) 受入供給設備	(1) 搬入ごみ量の計測			ごみ量の計測、記録ができる設備となっているか	-	-				
		(2) プラットホームでの車輛の洗浄			プラットホーム上で車輛を洗浄するための設備が設けられているか	-	-				
		(3) ごみ受入に関する貯留能力			受入ピットの容量は十分であるか	設計図書で確認	-				
		(4) ごみの投入方法			ごみ収集車の運転者が下車せずに投入できる構造か	-	-				
		(5) ごみの均一混合			ピット・クレーン方式で常時ごみを均一に混合できるか	-	-				
		(6) 定量供給			定量ずつ連続的にごみを燃焼室に投入できるか	-	-				
		(7) 悪臭防止対策	プラットホーム上での悪臭防止対策はとられているか	-	-						
1.4 ごみ処理	1) 不燃・粗大ごみ処理設備	(1) 設置	不燃・粗大ごみ処理設備を設置しているか	-	-						
		(2) 破碎設備	破碎設備に投入されるごみ量の85%以上を、1回の破碎処理で燃焼・溶融炉の投入口の大きさ以下に破碎できるか	引渡性能試験で確認	-						
			繰り返し投入することにより、全てのごみの大きさを燃焼・溶融処理設備の投入口以下にできるか	引渡性能試験で確認	-						
			粉じん防止対策は取られているか	-	-						
		(3) 選別設備	鉄分の回収率が90%以上であるか	引渡性能試験で確認	-						
			鉄分の純度が95%以上であるか	引渡性能試験で確認	-						
			粉じん防止対策は取られているか	-	-						
			他の設備で鉄分を回収（回収率90%以上）できる構造となっているか	（選別設備を設置しない場合）	-						
2) 燃焼・溶融設備	(1) 熱分解ガスの漏洩防止	熱分解ガスの漏洩防止のための炉のシール、炉内の負圧が行われているか	-	-							

※施工後の施設を見て判断できるものについては、判断基準を記載していない。

区分	種別	細別	性能要件	判断基準	適否	備考			
第2章 広域処理施設の設計・施工に関する要件	第3節 設計・施工に関する要件	1 広域処理施設に関する技術要件	(2) 燃焼温度、滞留時間	燃焼温度850℃以上、燃焼プロセスにおけるガス滞留時間が2秒以上であるか	引渡性能試験で確認	○・否			
			(3) 外気との遮断	外気と遮断されているか	-	-			
			(4) 助燃装置	燃焼室内に助燃装置が設置されているか	-	○・否			
			(5) 燃焼用空気	燃焼に必要な空気を供給できるか	-	○・否			
			(6) 熔融温度	熔融温度が1,200℃以上であるか	引渡性能試験で確認	○・否			
			(7) 温度の計測	連続的に計測、記録できる装置が設置されているか	-	○・否			
			(8) 物質収支及びエネルギー収支	マテリアルバランス、エネルギーバランス把握のための計測装置等が設けられているか	-	○・否			
			(9) 熔融物の閉塞防止	熔融物の排出部に助燃装置が設置されているか	-	○・否			
			(10) 熔融物冷却方式	水冷方式の場合、熔融物に対し水量は十分に確保できるか	-	-			
			(11) 排ガス対策	排ガスが生活環境に支障を与えないか	3.1で確認	-			
			3) ガス冷却設備	(1) 集じん器流入ガス温度	集じん機に流入する燃焼ガスの温度が200℃以下であるか	引渡性能試験で確認	○・否		
				(2) 温度の計測	連続的に計測、記録できる装置が設置されているか	-	○・否		
				(3) ばいじん除去	(必要に応じて) ばいじん対策が採られているか	-	-		
			4) 排ガス処理設備	(1) 集じん器の設置	集じん器(バグフィルタ)が設置されているか	-	○・否		
				(2) 排ガス中の有害物質の連続計測	一酸化炭素、二酸化硫黄、窒素酸化物の濃度を連続的に計測、記録できるか	-	○・否		
				(3) 排ガス中の有害物質の定期計測	硫酸酸化物、塩化水素の濃度を定期的に計測、記録できるか	-	○・否		
				(4) ばいじん除去	(必要に応じて) ばいじん対策が採られているか	-	-		
			5) 通風設備	(1) ダウンウォッシュ・ダウンドラフト現象の防止	ダウンウォッシュ、ダウンドラフト現象に対する防止措置が講じられているか	-	○・否		
				(2) 煙突高さ	煙突高さ100mとなっているか	-	○・否		
				(3) 白煙防止設備	白煙防止対策(2℃、80%)を講じているか	委員会で確認	○・否	改善済	
			6) 熔融飛灰処理設備	(1) 灰出し設備	灰出し設備から飛灰の飛散がない構造であるか	-	-		
				(2) 熔融飛灰の処理	熔融飛灰の処理を薬剤処理+セメント固化処理としているか	-	○・否		
			1.5 貯留・搬出	1) 各貯留・排出設備に共通の事項	(1) 雨水、地下水対策	貯留設備内に雨水等が侵入しない構造であるか	-	-	
					(2) 貯留設備の構造	貯留物の搬入が容易な構造であるか 降雨、降雪等で貯留物の搬入が影響を受けないか	-	-	
					(3) 粉じん、汚水、悪臭対策	粉じん、汚水の流出浸透、悪臭対策がとられているか	-	○・否	
				2) 処理不適用貯留設備	(1) 処理不適用貯留設備の設置	処理不適用貯留設備が設置されているか	-	-	
					(2) 貯留能力	貯留能力は十分であるか	設計図書で確認	○・否	
					(3) 処理不適用物の保管	処理不適用物のトラックへの積載が容易に行える構造であるか	-	-	
					(4) 処理不適用物の搬出	SPCが搬出を行うこととしているか	-	-	
				3) 鉄分貯留設備	(1) 鉄分貯留設備の設置	鉄分貯留設備が設置されているか	設計図書で確認	○・否	
		(2) 貯留能力	貯留能力は十分であるか	-	-				
		(3) 鉄分の保管	-	-	-				
	4) 熔融スラグ貯留設備	(1) 熔融スラグ貯留設備の設置	熔融スラグ貯留設備が設置されているか	設計図書で確認	○・否				
		(2) 貯留能力	貯留能力は十分であるか	-	-				
		(3) 熔融スラグの保管	-	-	-				
	5) 熔融飛灰処理物貯留設備	(1) 熔融飛灰処理物貯留設備の設置	熔融飛灰処理物貯留設備が設置されているか	-	-				
		(2) 貯留能力	貯留能力は十分であるか	設計図書で確認	○・否				
		(3) 熔融飛灰処理物の保管	-	-	-				
	6) 燃料・副資材貯留設備		貯留能力は十分であるか	設計図書で確認	○・否				
1.6 熱利用	1) 電力供給	(1) 発電設備	発電容量2,000kW未満であるか	-	○・否				
		(2) 非常用発電設備	非常用発電設備を設置しているか	-	○・否				
		(3) 受電設備	-	-	-				
	2) 熱供給		熱供給を想定した計画となっているか	設計図書で確認	○・否				
1.7 排水処理	1) プラント排水		クローズド方式となっているか	-	○・否				
	2) 生活雑排水		クローズド方式となっているか	-	○・否				
	3) 建設工事に伴う汚水・濁水		沈砂池を設ける計画となっているか	-	○・否				

※施工後の施設を見て判断できるものについては、判断基準を記載していない。

区分	種別	細別	性能要件	判断基準	適否	備考	
第2章 広域処理施設の設計・施工に関する要件	2 副成物に関する要件	2.1 鉄分	1) 回収率 2) 純度	鉄分の回収率が90%以上であるか 鉄分の純度を95%以上とできるか	1.4 1)(3)で確認 (選別設備を設置する場合) 1.4 1)(3)で確認 委員会で確認	- -	
		2.2 溶融スラグ	1) 溶融スラグの安全性 2) 溶融スラグの有効利用 3) 溶融スラグの減量化	溶出基準、含有量基準を満足できるか 溶融スラグの全量引取りができるか スラグの減量化に努める計画となっているか	引渡性能試験で確認 委員会で確認	○・否 ○・否 ○・否	
		2.3 溶融飛灰	1) 溶融飛灰の処理について 2) 溶融飛灰及び溶融飛灰処理物の安全性 3) 溶融飛灰の減量化	溶融飛灰の処理を薬剤処理+セメント固化としているか 溶出基準、含有量基準を満足できるか 溶融飛灰の減量化に努める計画となっているか	1.4 6)(2)で確認 引渡性能試験で確認 委員会で確認	- ○・否 ○・否	
	3 環境に関する要件	3.1 排ガス	1) 排ガスに関する基準値 2) 排ガス中のダイオキシン類濃度について (1) 排ガスダイオキシン類濃度 (2) 燃焼・溶融設備	排ガスの基準値を満足できるか ダイオキシン類濃度0.1ng-TEQ/Nm ³ 以下であるか 燃焼ガス温度850℃以上 燃焼プロセスにおけるガス滞留時間2秒以上 排ガス中のCO濃度30ppm以下 CO濃度のピークが100ppmを越えないこと	引渡性能試験で確認 引渡性能試験で確認 1.4 2)(2)で確認 1.4 2)(2)で確認 引渡性能試験で確認	- ○・否 ○・否 ○・否	
		3.2 騒音		騒音の基準値を満足できるか	引渡性能試験で確認	○・否	騒音が基準値上回るが、施設の影響は小さい
		3.3 振動		振動の基準値を満足できるか	引渡性能試験で確認	○・否	
		3.4 悪臭		悪臭の基準値を満足できるか	引渡性能試験で確認	○・否	
		3.5 排水		排水の基準値を満足できるか	引渡性能試験で確認	○・否	
		3.6 周辺の自然環境の保護		周辺環境に悪影響が及ばない施設であるか	引渡性能試験で確認	○・否	
	4 その他の要件	4.1 給排水計画	1) 施設内における水利用 2) 水資源の保全	- 河川水は利用しない計画となっているか	- -	- ○・否	
		4.2 材料・機器等	1) 規格等 2) 耐熱性	用途に適合した材料・機器が使用されているか 高温部の材料は、耐熱性に優れたものであるか	- -	- -	
		4.3 運転監視	1) 運転監視 2) 遠隔監視 3) 広域処理施設の稼働に係る計測 4) 広域連合への報告 5) 警報装置	集中制御室での監視が可能となっているか 広域連合の事務室において運転に関する主要データの遠隔監視が行える構造となっているか 各種計測を行うための設備が付設されているか 異常事態発生時に、警報が鳴る構造となっているか	- - - -	- ○・否 -	
		4.4 寒冷地対策	1) 積雪時の管理 2) 凍結防止 3) 道路融雪	主要機器は全て屋内に設けられているか 凍結しない構造とされているか (1) 配管、井、ポンプ、タンク等 (2) 計装用空気配管 (必要に応じて)道路融雪が計画されているか	- - - -	○・否 ○・否 ○・否	
		4.5 作業環境の保全	1) 安全の確保 2) 良好な状態の維持 3) 騒音対策 4) 防じん措置	安全確保のための配慮がなされているか 作業環境が良好な状態に保たれているか 機械騒音への対策が施されているか 防じん防止対策がなされているか	- - - -	- - -	
		4.6 事故・災害防止	1) 事故・災害防止対策 2) 二次災害の防止	(1) 防爆措置 (2) 火災防止対策 (3) 地震対策 (1) 集中管理 (2) 安全措置	防爆対策がとられているか 散水設備、消火器が整っているか 重要度係数1.25以上であるか ごみ供給等の停止が集中管理室から行えるか 緊急時には、安全サイドに働くようにしてあるか	- - - -	○・否 - -
		4.7 緊急時対策	1) 緊急時作動性能 2) 無停電電源 3) 連絡体制	事故、地震時等には、施設が安全に停止できるか 交流無停電電源が設置されているか 緊急時の連絡システムが確立されているか	引渡性能試験で確認 -	○・否 ○・否	
		4.8 広域連合の事務室		事務室の設置を計画しているか	-	-	○・否
		4.9 見学施設等	1) 見学の対象 2) 見学者の設備 (1) 案内板、自動案内装置 (2) 見学者用通路 (3) 休憩用ベンチ (4) バリアフリー	主要設備について見学が行える構造となっているか 案内板、自動案内装置が設置されているか 幅3m以上であるか ベンチが設置されているか バリアフリーに配慮しているか	- - - -	- ○・否 ○・否 ○・否 ○・否	

※施工後の施設を見て判断できるものについては、判断基準を記載していない。

区分	種別	細別	性能要件	判断基準	適否	備考			
第2章 広域処理施設の設計・施工に関する要件	第3節 設計・施工に関する要件	4 その他の要件	(5)エレベーター	各階にエレベーターが設けられているか	-	○・否			
			(6)会議室の用意	会議室が設けられているか	-	○・否			
			(7)冷暖房の完備	冷暖房を完備しているか	-	-			
			(8)自然採光	自然採光を可能な限り取り入れているか	-	-			
			(9)リサイクルセンターとの連携	リサイクルセンターとの連携が考慮されているか	-	-			
			(10)処理業務の効率維持	-	-	-			
			(11)閲覧設備	-	-	-			
			3)見学者の想定人数	-	-	-			
			4)記録及び閲覧	-	-	-			
			5)運転状況に係る情報の公開	電光掲示板により稼働状況が公開されているか	-	○・否			
			第5節 土木建築特記事項	1 計画基本事項	1.1 計画概要	1) 工事範囲	必要に応じて地質調査は行われるか	-	-
	2) 地質調査	建設基準法、消防法等を遵守しているか			-	-			
	3) 安全確保	振動及び衝撃に対し、安全を確保しているか			-	-			
	1.2 施設配置計画	4) 建設廃棄物等の取扱い		1) 一般事項	適切な処理・処分ができるか	-	-		
				(1) 合理的な配置	合理的な配置がなされているか	-	-		
				(2) 周囲との調和	周囲の環境との調和のとれた建屋となっているか	-	-		
	2) 動線計画	(1) 構内動線		構内動線に問題のない計画がなされているか	-	○・否			
		(2) 構内道路		道路は適正に設けられているか	-	-			
		(3) 一般車輛動線		搬出入車輛動線と分離されているか	-	○・否			
	1.3 その他			関係法令、基準、共通仕様書等が守られているか	-	-			
	2 建築・建築設備工事	2.1 全体計画		1) 基本方針	(1) 関係法令の遵守	安全衛生設備が完備されているか	-	-	
					作業環境は良好に保たれているか	-	-		
					(2) 工場棟の計画	工場棟の計画がバランスよくなされているか	-	-	
					(3) 配置計画	車輛動線を考慮した配置計画がなされているか	1.2 2) (1)で確認	-	
					(4) 所要各室	規模と強度は適正に計画されているか	-	-	
					(5) 冷暖房装置	居室は冷暖房装置を取り付けること	-	-	
			(6) 機器の集約配置		集約配置することで効率化を図っているか	-	-		
(7) 作業スペースの確保			職員の作業スペースが確保されているか		-	-			
(8) 粉じん防止			粉じんの発生するおそれのある設備は密閉された部屋に設置されているか		-	-			
(9) 騒音対策			騒音の発生するおそれのある設備は密閉された部屋に設置されているか		-	-			
(10) 維持管理費用	維持管理費用は低廉であるか	-	-						
2.2 構造計画		2) 工場棟計画	処理の流れに沿って、設備が配置されているか	-	-				
		立体的に配置が計画されているか	-	-					
2.3 仕上計画	1) 広域処理施設の外観	2) 外部仕上	建設基準法、各種規格等に基づいた構造計画となっているか	-	-				
			「親しみ」と「落ち着き」を醸し出すデザインとなっているか	-	-				
			(1) 周辺環境への適合	周辺環境に適合した仕上計画となっているか	-	-			
			(2) 材料の耐久性	材料は耐久性の高いものとなっているか	-	-			
			(3) 建具	外気に面する建具は、耐食性、気密性の高いものとされているか	-	-			
			窓に防虫網が設けられているか	-	-				
3) 内部仕上	(1) 各部屋の仕上	各部屋に応じた仕上がなされているか	-	-					
	(2) 用途に応じた仕上	薬品の取扱、温度・湿度等に応じた仕上がなされているか	-	-					
2.4 建築設備		各講室内に適切に建築設備が配置されているか	-	-					
3 土木工事及び外構工事	3.1 土木工事 3.2 外構工事	1) 構内道路	残土処分が生じないか	-	-				
			一方通行式となっているか	1.2 2) (1)で確認	-				
			車輛の交通安全が図られているか	-	-				
			除雪スペースが設けられているか	-	-				
			見学者用バス2台、乗用車10台以上が駐車可能であるか	-	○・否				
			2) 駐車場						
			3) 構内排水設備	施設内への浸水を防ぐ、適切な排水設備が設けられているか	-	-			
4) 構内照明設備	照明が適切に設けられているか	-	-						
	5) 植栽	緑被率20%以上が確保されているか	-	○・否					
	6) 門・囲障	周辺環境、同敷地内の他施設との調和が図られているか	-	-					

※施工後の施設を見て判断できるものについては、判断基準を記載していない。